

出席者 (学 校) 田川校長、間副校長、勝木教頭、伊藤教頭、保木本事務長
(評議員) 佐藤文昭、伊藤真司、玉井康之、北南和彦 < 敬称略 >

1 開会 校長挨拶

2 学校評価について

- (1) 全日制<年度末自己評価の結果と分析> (間副校長)
- (2) 定時制<年度末自己評価の結果と分析> (伊藤教頭)
- (3) 学校関係者評価の結果と分析 (勝木教頭)

3 情報交換・意見交換

- ・玉井評議員：・SSH関連の評価に教職員で差があるのは、SSHの取組が「生徒の学力には直結していない」という評価の表れか。
 - ・SSHにおいて理数以外の教科との関わりは、どのようなものがあるか。
(回答)SSHへの取組が、まだ理数科を中心とした取組が主で、教職員全員での取組になっていないためである。
家庭科における栄養素の分析や情報科で研究データの処理を行っている。
 - ・服装指導においては、TPOを考えさせることが大切である。そして、自己コントロールする術(すべ)を身につけさせることは、社会に出てからも、役立つことである。

- ・伊藤評議員：・SSHはその成果を評価するためには、少なくとも10年間の継続が必要である。SSHは理数科だけでも効果があるが、普通科理型そして文型へと広がりを持たせ、普通科生徒への波及効果や相乗効果を期待したい。
 - ・学会の発表のプレゼンを生徒が見ておくことも必要である。
 - ・生徒発表会は、とても素晴らしい内容であった。自分達で話し合い、資料をまとめ、発表する経験は大事である。どんどん経験を積ませてほしい。
 - ・生活指導においては、ソーシャルスキルを身につけさせるための家庭のしつけが大切で、家庭内での対話が必要である。

- ・佐藤評議員：・SSHで、生徒が研究したことを発表できたことは有意義な体験で、また、大学の先生等からの質問も、生徒を伸ばそうとする内容で、生徒の成長する機会となった。また、様々な体験の場は、知識の必要性を感じさせ、興味・関心を高め、平素の学習に意義を見つけることに繋がる。

4 その他

- (1) 大規模改造工事の経過報告
- (2) 来年度第1回学校評議員会議の開催予定は、平成25年4月27日(土)13時~15時

5 閉会 校長挨拶